



12月19日（木）、旭小学校の5年生が、総合の授業で魚の三枚おろしに挑戦しました。

地元の漁師さんがその日の朝に捕った新鮮なアジを持ってきてくださり、説明と実演もしていただきました。子どもたちの中には包丁がうまく使用できない子や、魚を包丁で切る初めての感触に驚く子もいましたが、何度か挑戦しているうちにコツをつかみ、三枚おろしを進めていきました。

三枚おろし終了後は、アジに刻みネギと生姜を入れてたたき、片栗粉を混ぜてハンバーグのように調理して食べました。

最後に、漁師さんが持ってきてくださった大きなハマチの解体実演を見ました。豪快な包丁捌きで、みるみる解体されていくハマチを、子どもたちは食い入るように見つめていました。

三浦ならではの、地元で獲れた新鮮な魚の調理を体験することができる貴重な授業だったと思います。



1月16日（木）、17日（金）の2日間、初声中学校の2年生2名が、東京大学の三崎臨海実験所で、職場体験をしました。実験所には、毎年、職場体験を受け入れていただいています。

取材に行った時は、ホヤの育成に使うかごやロープについてしまったフジツボなどの貝を、鉄のへらを使って落としているところでした。

これらのかごやロープは、約6ヶ月海に吊るしておくので、表面には貝などがびっしりついてしまいます。それを半年ほど乾燥させると、落としやすくなるのだそうです。2人の生徒は、最初はとまどっていましたが、だんだん慣れてきて、かご等をきれいにしていきました。この他にも、ホヤの受精から育成までも体験させてもらえるようです。また、17日（金）には、名向小学校の4年生5名が、実験所の見学をさせていただきました。



現在、本研究所が毎年参加している、三浦市立病院の院内展示が行われています。内科待合室の壁に、海洋教育写真コンテストの入賞作品や三浦市の海洋教育の様子の写真が展示してあります。展示期間は、1月28日（火）から2月17日（月）までです。

同時に展示されている三崎小学校の絵画作品の半数以上が海に関するものでした。海洋教育の広がりを感じます。



（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで